

実践プラン例（6）

地域で「ホームレス問題や子どもの貧困の問題」について考える

<エピソード>

Aさんは校区福祉委員会に所属しています。先日知った、ホームレスの人が若者に襲撃されたという事件のことが気にかかっていたので、委員会で話をしてみました。

Bさん「うちの地域にホームレスの人なんかいないんじゃない？あれは都会の話でしょう」

Aさん「でも、ショッピングセンターや図書館なんかで、毎日同じ服装で一日中過ごしている人がいますよ？」

Cさん「そういえば最近、子どもの貧困という言葉も聞くことがよくあるんだけど、ホームレスの人や貧困状況の子どもってそんなにたくさんいるのかな？」

メンバーのなかに「ホームレスってどんな人？」「なぜ、ホームレスになったの？」「貧困状況にある子どもって日本や地域にどれくらいいるの？」などさまざまな疑問が生まれてきて、校区福祉委員会で学習会を開くことにしました。

ここが
ねらい

地域がホームレス問題や貧困の問題に関心を持つようになること。

〇概要

自治会の校区福祉委員会がホームレス問題、貧困の問題についての理解を深め、社会教育施設を活用して、より広く啓発し関心を広げていく。

参加者：地域住民
実施場所：自治会館、公民館、図書館



4つのステージ

*ステージを組み合わせた場合

気づきを促す

学ぶ機会をつくる

情報提供と
できること気になることから始める意識の醸成

取組内容

参加者の
気持ちの
変化

◆ホームレスの人や貧困状況にある子どもの現状を知る

校区福祉委員会の活動として、学習会を開き「ホームレス問題」や「子どもの貧困の問題」の現状に気づく。

〇気づく

「ホームレスになる原因っていろいろな理由があるんだなあ」
「ホームレス状態から自力で抜け出すのは思ったより難しいんだ」
「6人に1人の子どもが貧困状況にあるなんて知らなかった」
「貧困の連鎖って深刻な問題なんだなあ」

◆支援団体とその取組みを学ぶ

校区福祉委員会の活動として、「ホームレス問題や子どもの貧困の問題」への関心を高めることを目的に、支援の取組み紹介も交えた講演会を公民館で実施する。

〇学ぶ

「支援に取り組んでいる団体があるなんて知らなかったなあ」
「実際に支援に関わっている人の声を聞いてよかった。支援活動は大変そうだったなあ」
「専門的な支援は団体でないと難しいと思うけど、私たちにも何かできることないかなあ」

◆図書館を活用して「ホームレス問題や子どもの貧困の問題」への関心を地域に広げる

校区福祉委員会と図書館と支援団体が連携して図書館の展示スペースにパネルやポスター、本などを展示し、地域の人たちにホームレス問題や子どもの貧困の問題の現状や支援の取組みについて発信する。

〇知る

「展示にあるさまざまな支援の取組みを見て、関心がわいてきた。一度自分でもいろいろ調べてみよう」

〇始める

「展示にあった支援グループが行う講演会に子どもと一緒にいってみたいかなあ」

つぎへの工夫！

学習会の講師としてかつて貧困状況にあった人を招き、当事者が求めていることや抱える課題を伝えてもらい関心を高める。

つぎへの工夫！

講演会には、図書館の職員にも来てもらい、書籍やポスター等の展示物や展示方法についてイメージを高めてもらう。

関わる団体と
役割分担の
イメージ

